～地域農業を支える開拓者～

坂本　忠

水資源開発公団営事業「群馬用水地区」

取組のポイント

①群馬用水及び関連事業によって整備された農地を活用し、酪農から野菜経営に転換。
②地域でいち早くちぢみほうれんそうとモロヘイヤを導入。地域の生産者が増加し、県内有数の産地へ発展。群馬県は全国一のほうれん草とモロヘイヤの産地となっている。
③地域活動組織を立ち上げるなど地域農業の活性化に貢献。

経営の概要
従事者数：３人
雇用者数：７人
経営面積：6.5ha
主要作物
ちぢみほうれんそう 2.5ha
モロヘイヤ 0.5ha
ねぎ 1.0ha
水稲 2.5ha

取組の経緯と課題

■酪農経営と稲作を行っていたが、BSEにより経営が悪化。
■経営安定のため、規模拡大と周年での作業・収入の確保が必要。
■作業効率の向上や雇用者の労働環境改善のため、機械の改良等が必要。
■後継者や耕作放棄地の問題への対応と地域農業の活性化。

群馬県前橋市

課題への対応

■酪農経営が悪化する中、既に整備されていた群馬用水を活用することができたことから、野菜経営に転換。地域では作付けが少なかったモロヘイヤや、地域で初めてちぢみほうれんそうを導入。
■年間を通じて収益等を確保するため、ねぎを導入。
■機械メーカー等へ依頼し、既存機械を改良した専用の収穫・調製機械等を導入。
■地域活動組織として「グリーン21」を立ち上げ、後継者育成や遊休農地の解消などに取り組む。

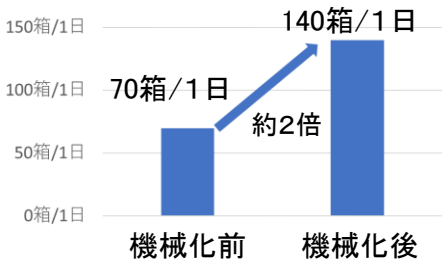
ちぢみほうれんそう専用
アタッチメント
（振動掘取機）

取組の成果

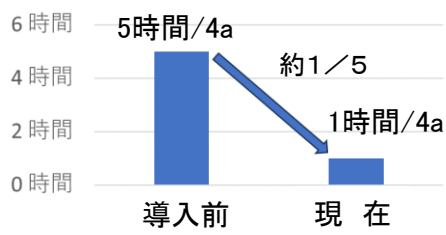
■ちぢみほうれんそうは、地域の特産品とするため、周辺農家に働き掛け、現在は地域内で50～60人が栽培。県内有数の産地へ発展。
※群馬県はほうれん草の作付面積日本一
■モロヘイヤも同氏らが先導した結果、地域で生産が拡大し、県内有数の産地へ発展。群馬県が作付面積日本一となっている。
■機械の導入等により、作業が効率化（ねぎ箱詰め、ちぢみほうれんそう収穫等）。雇用者の労働環境も改善。
■人材育成等に努めるなど地域農業の活性化に貢献。

機械により袋詰めされた
モロヘイヤ

機械化による作業の効率化
（ねぎの箱詰め）



機械化による作業の効率化
（ちぢみほうれんそう収穫）



※１日3～4アールを収穫

事業概要
地 区 名：群馬用水地区
事 業 種：水資源開発公団営事業
関係市町：群馬県前橋市，高崎市，渋川市，桐生市，伊勢崎市；吉岡町、榛東村
受益面積：7,449ha
工　　期：昭和38年度～昭和44年度
事業目的：田畑輪換，畑地かんがい，用水補給
主要工事：幹線水路　約60km
揚水機場　６箇所